

# 1) 定住人口・世帯数の減少

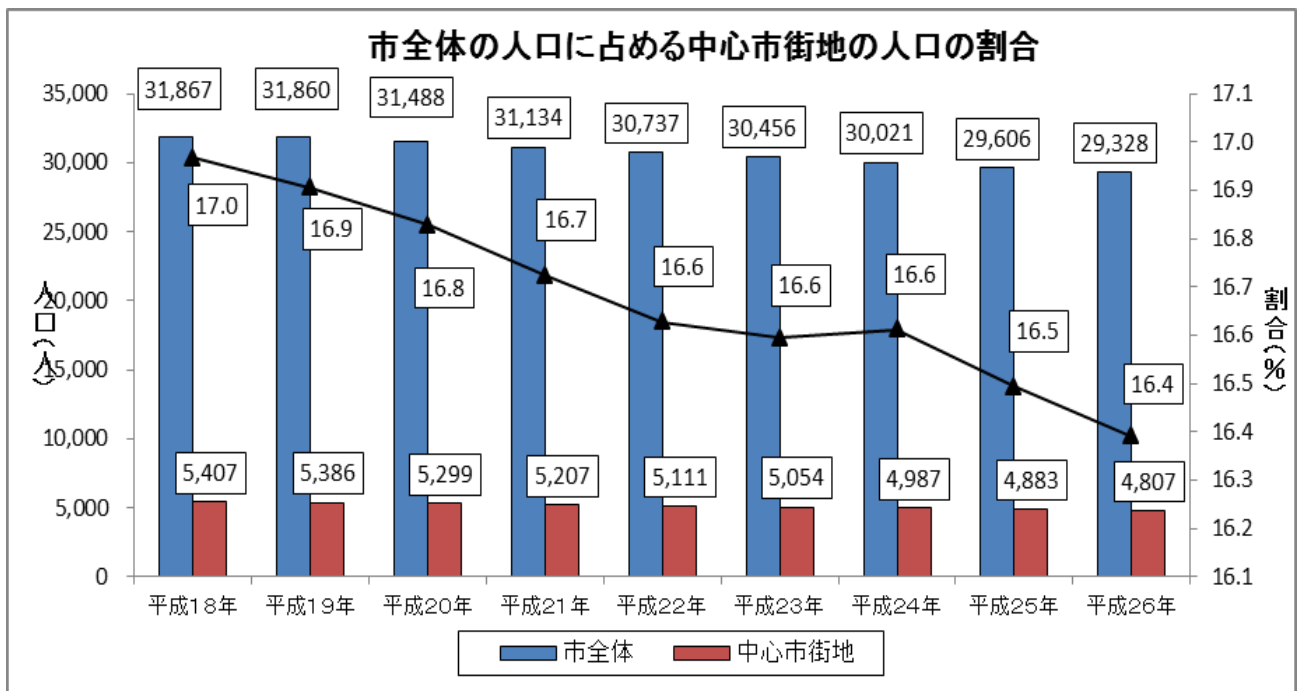
## ①定住人口

- 住民基本台帳による平成26年10月1日現在の人口は、市全体が29,328人、中心市街地の人口が4,807人です。
- 平成18年から平成26年までの8年間の人口の推移をみると、市全体は8.0%、中心市街地の人口は、11.1%の減少です。
- 市全体の人口に占める中心市街地の人口の割合は、平成18年の17.0%から平成26年の16.4%と、8年間で0.6%減少しています。

※ 本基本計画でいう「中心市街地の人口」とは、次の18自治会の人口の合計とします。

◆中心市街地の区域及び区域をまたぐ18自治会名

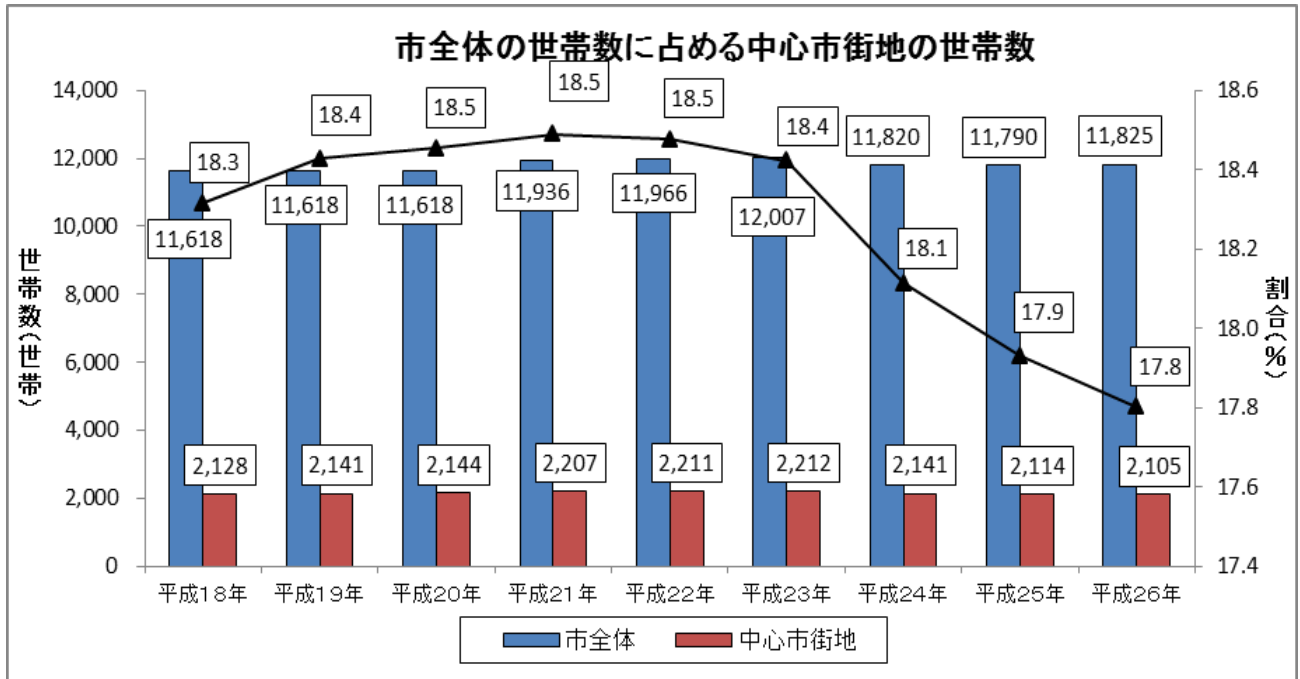
相生町、旭町、五日町、神栄町、上仲町、九日町、下仲町、白塩町、大黒町、高見町、仁科町、東町、日の出町、堀六日町、南原町、名店街、八日町、六九町



(資料: 住民基本台帳 毎年10月1日現在の数値)

## ②世帯数

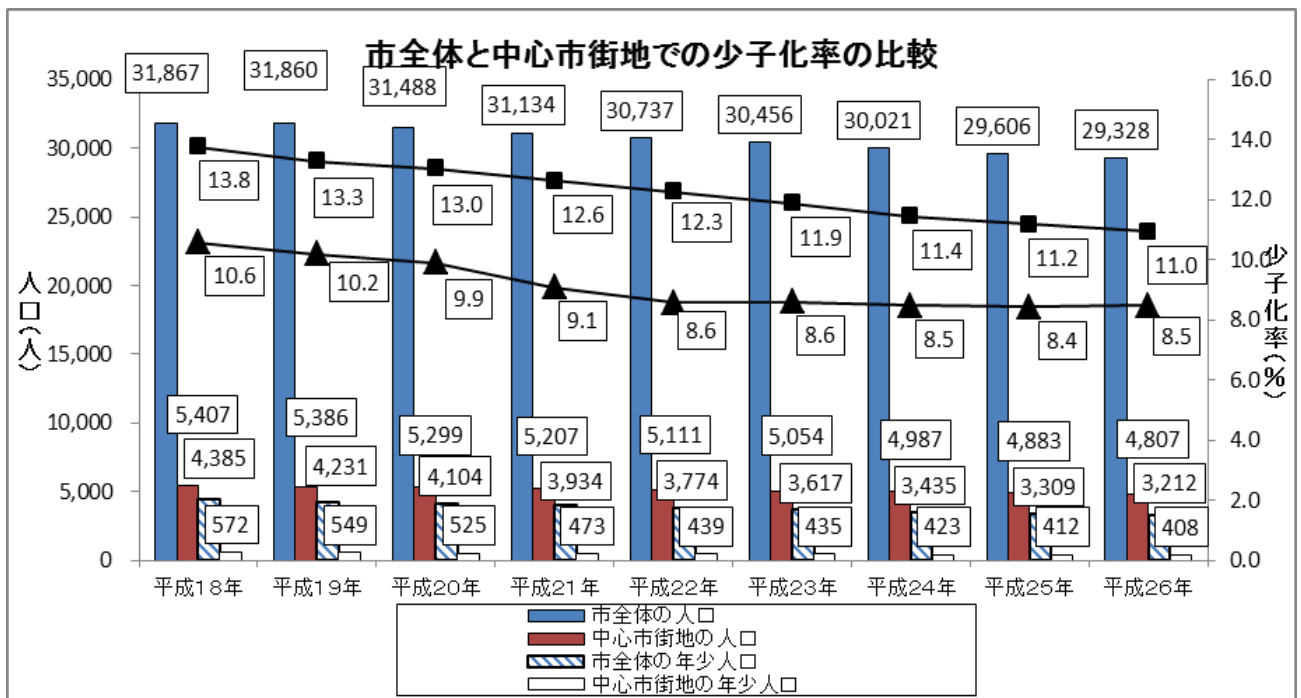
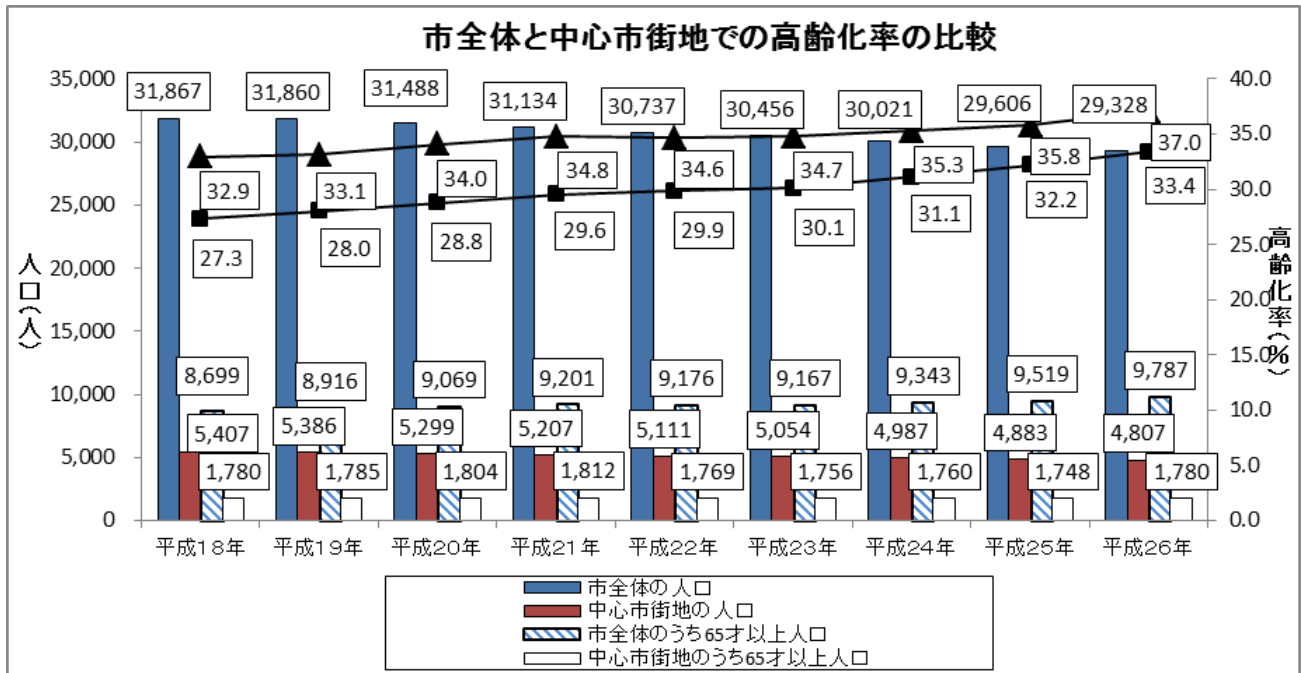
- 住民基本台帳による平成26年10月1日現在の世帯数は、市全体が11,825世帯、中心市街地が2,105世帯です。
- 平成18年から平成26年までの8年間の世帯数の推移をみると、市全体は1.8%の増加に対し、中心市街地は1.1%減少しています。
- 市全体の世帯数に占める中心市街地の世帯数の割合は、平成18年の18.3%から平成26年の17.8%と、8年間で0.5%減少しています。



(資料:住民基本台帳 毎年10月1日現在の数値)

## 2) 高齢化・少子化の進行

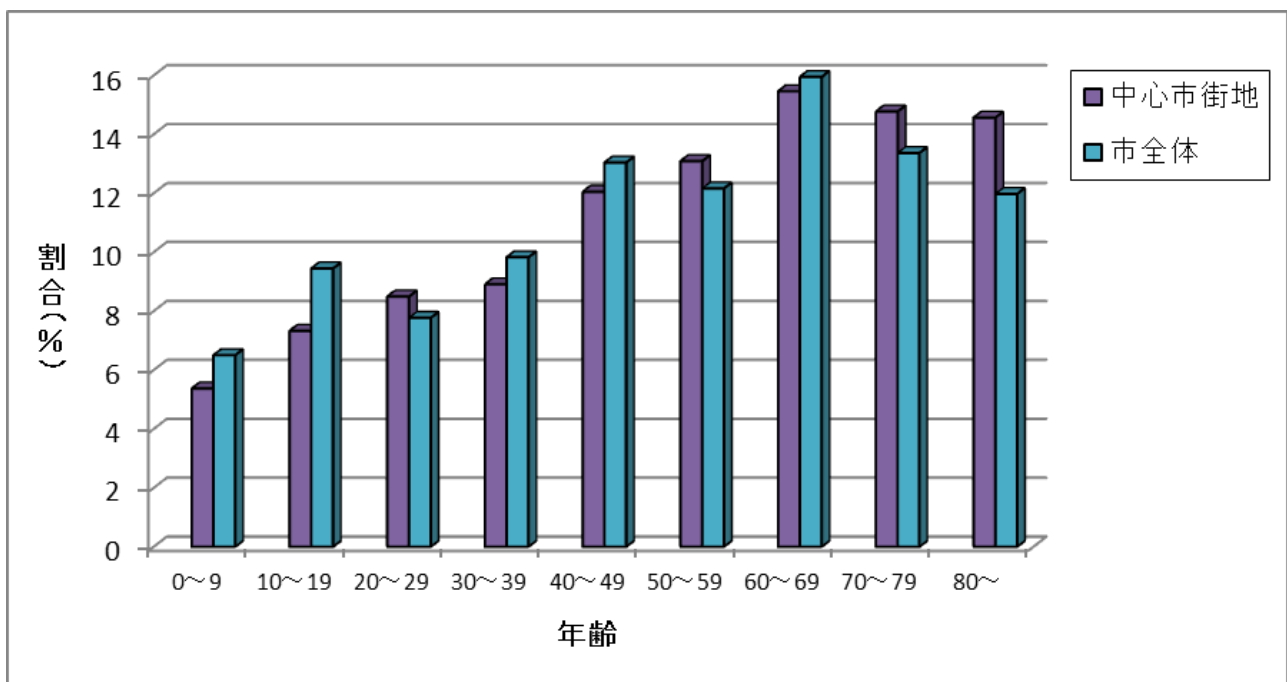
- 当市における平成26年10月1日現在の高齢化率（全体の人口に占める高齢者（65歳以上）人口の割合）は、33.4%ですが、中心市街地では37.0%を占めており、中心市街地の高齢化の進展が顕著です。
- 当市における平成26年10月1日現在の少子化率（全体の人口に占める年少（14歳以下の子ども）の割合）は、11.0%ですが、中心市街地では8.5%であり、中心市街地の少子化が進んでいます。



（資料：住民基本台帳 毎年10月1日現在の数値）

- 当市における平成26年10月1日現在の市全体と中心市街地の年齢別の割合をみた場合、いずれも高齢者の割合が高く、市全体よりも中心市街地の方が、その割合の高さが顕著です。

| 項目        |       | 年齢    |       |       |       |       |       |       |       |       | 計      |
|-----------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|
|           |       | 0～9   | 10～19 | 20～29 | 30～39 | 40～49 | 50～59 | 60～69 | 70～79 | 80～   |        |
| 人口<br>(人) | 中心市街地 | 258   | 352   | 408   | 428   | 579   | 629   | 743   | 710   | 700   | 4,807  |
|           | 市全体   | 1,906 | 2,769 | 2,278 | 2,881 | 3,823 | 3,566 | 4,676 | 3,918 | 3,511 | 29,328 |
| 割合<br>(%) | 中心市街地 | 5.4   | 7.3   | 8.5   | 8.9   | 12.0  | 13.1  | 15.5  | 14.8  | 14.5  | 100    |
|           | 市全体   | 6.5   | 9.4   | 7.8   | 9.8   | 13.0  | 12.2  | 15.9  | 13.4  | 12.0  | 100    |

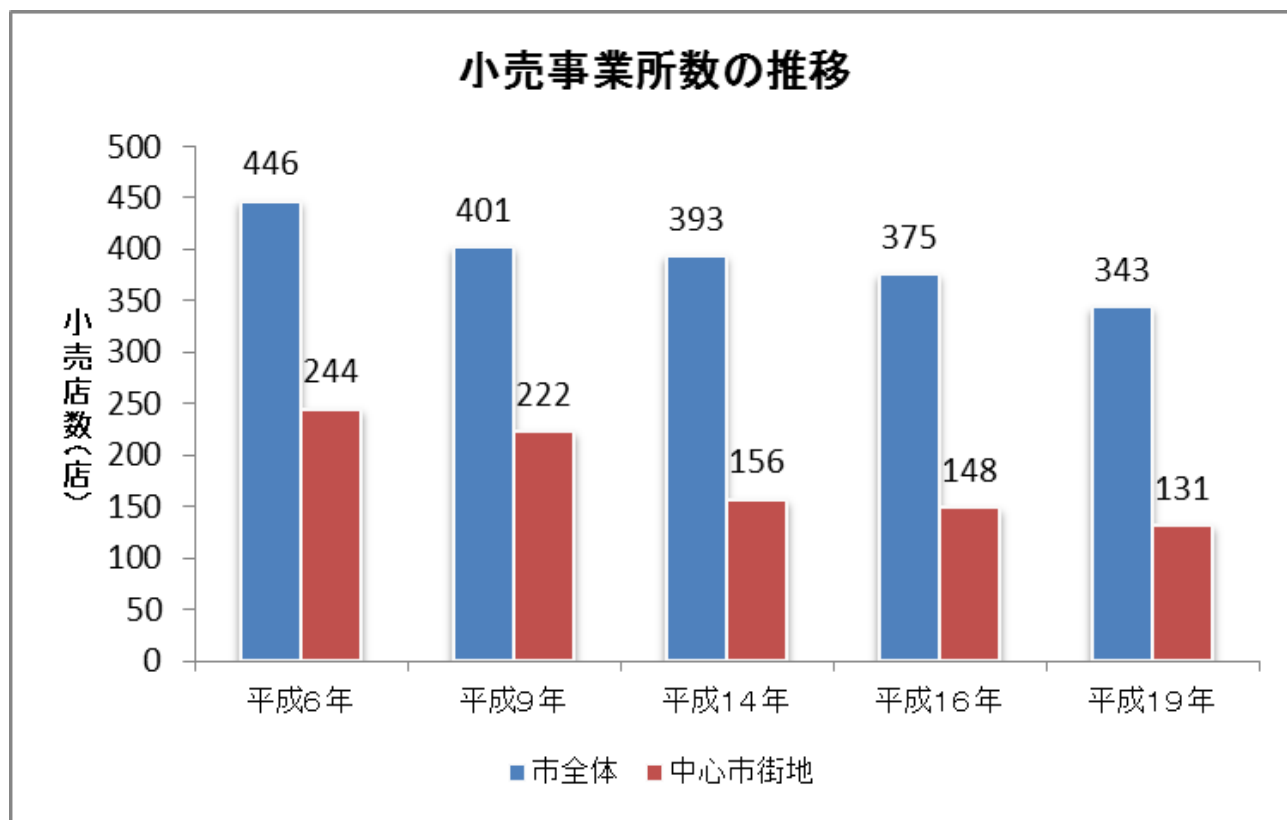


(資料：住民基本台帳 平成26年10月1日現在の数値)

### 3) 大火災害跡地など未利用地の増加による商業機能の低下

#### ①小売業事業所数

- 商業統計調査による平成19年の小売業事業所数は、市全体が343、中心市街地（商業集積地を構成する商店街）の商店数が131です。
- 平成9年から平成19年までの10年間の小売業事業所数の推移では、市全体が23.1%減少に対し、中心市街地は46.3%減少しています。

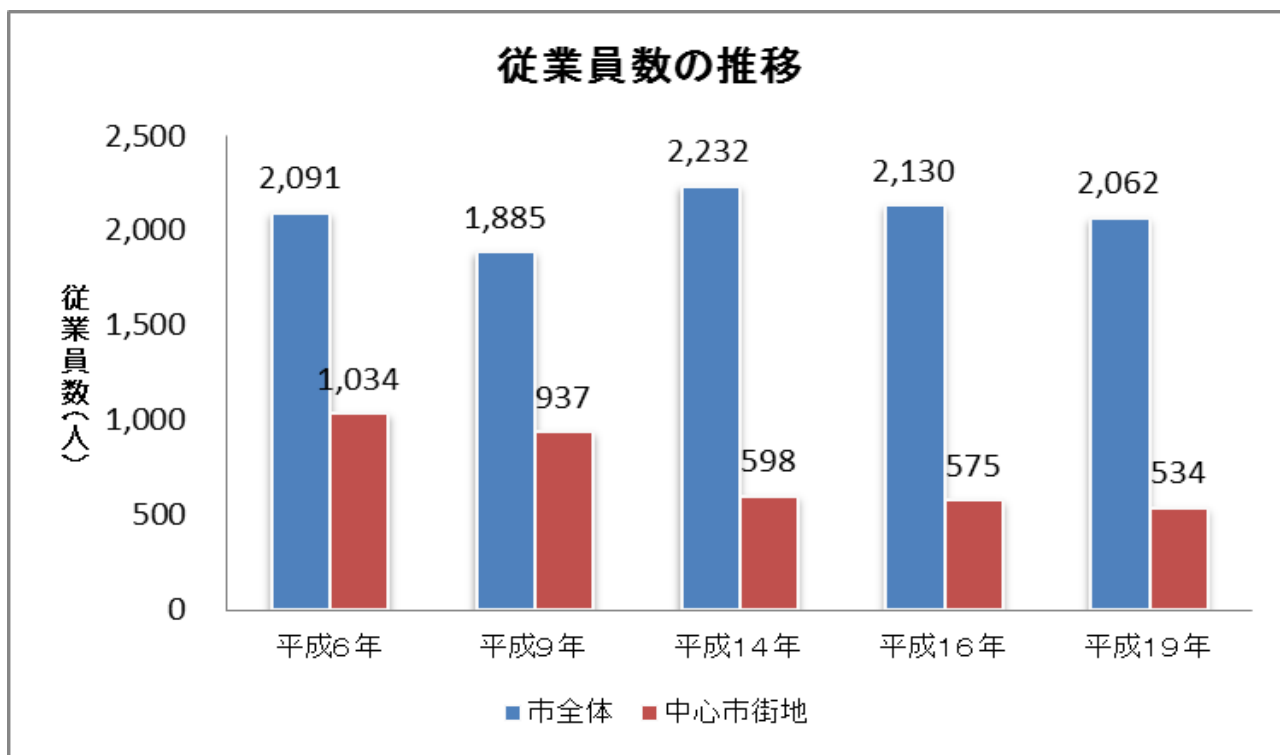


(資料：商業統計調査 大規模小売店含)

※直近調査は、平成26年7月1日を基準日とし、現在集計中。

## ②従業者数

- 商業統計調査による平成19年の年間小売業事業所の従業者数は、市全体が2,062人、中心市街地が534人です。
- 平成9年から平成19年までの10年間の小売業事業所の従業者数の推移をみると、市全体が9.4%増加に対し、中心市街地は43.0%減少しています。

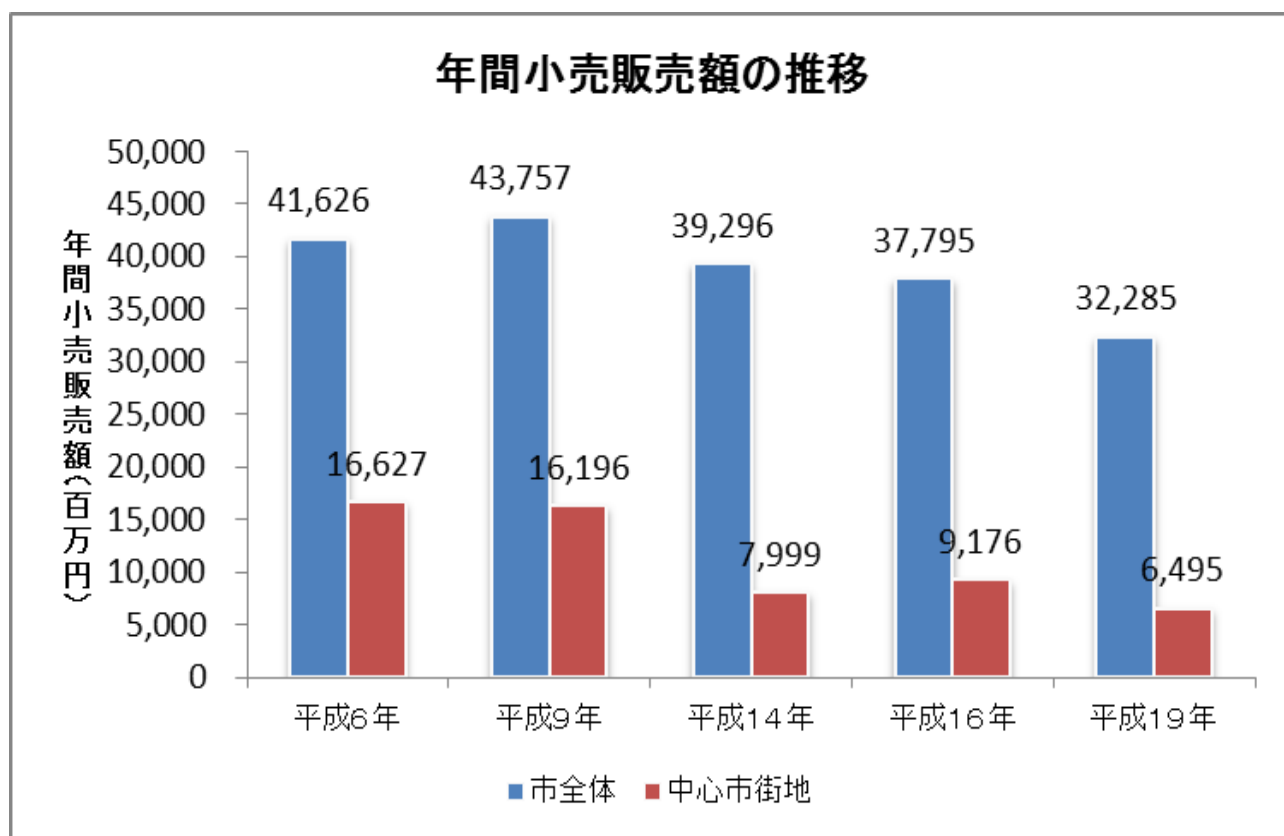


(資料：商業統計調査 大規模小売店含)

※直近調査は、平成26年7月1日を基準日とし、現在集計中。

### ③年間小売販売額

- 商業統計調査による平成19年の年間小売販売額は、市全体が322億8,500万円、中心市街地が64億9,500万円です。
- 平成9年から平成19年までの10年間の年間小売販売額の推移をみると、市全体が26.2%減少に対し、中心市街地は59.9%減少しています。

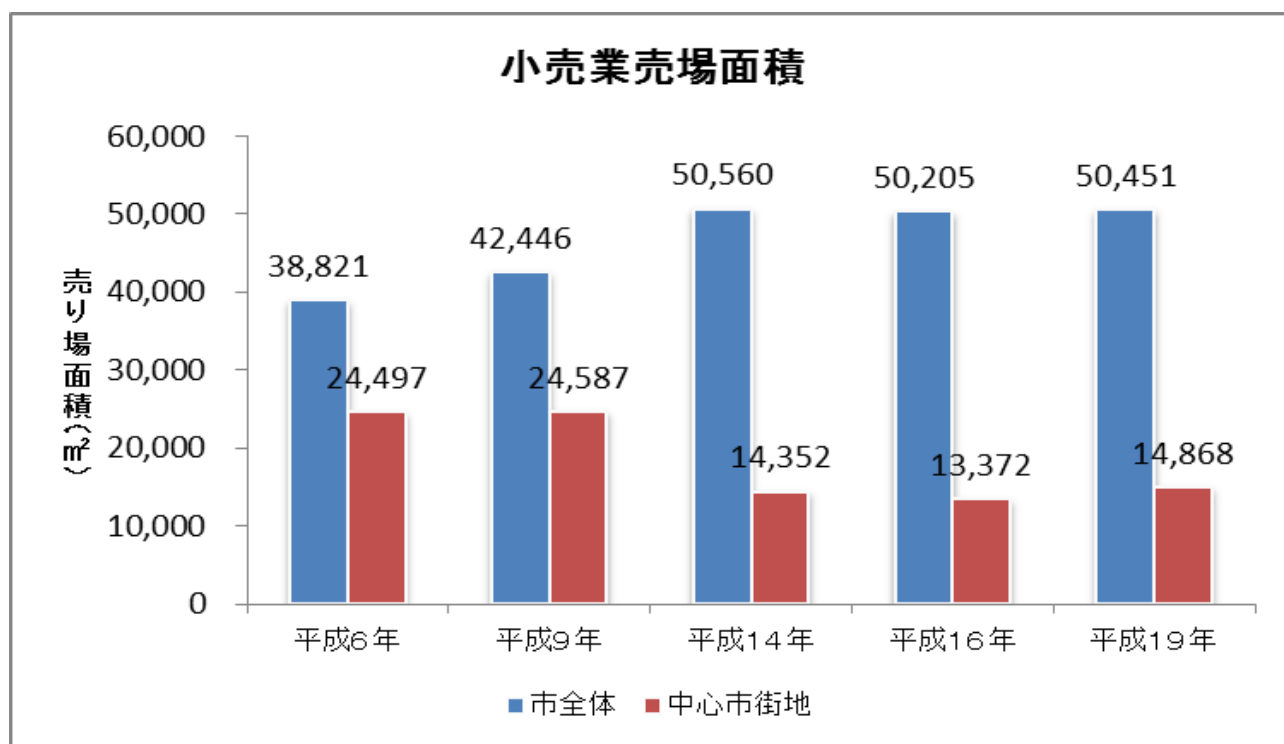


(資料：商業統計調査 大規模小売店含)

※直近調査は、平成26年7月1日を基準日とし、現在集計中。

#### ④小売業売場面積

- 商業統計による平成19年の小売業事業所の売場面積は、市全体が50,451㎡、中心市街地が14,868㎡です。
- 平成9年から平成19年までの10年間の小売事業所の売場面積の推移をみると、市全体が18.9%増加に対し、中心市街地は39.5%減少しています。



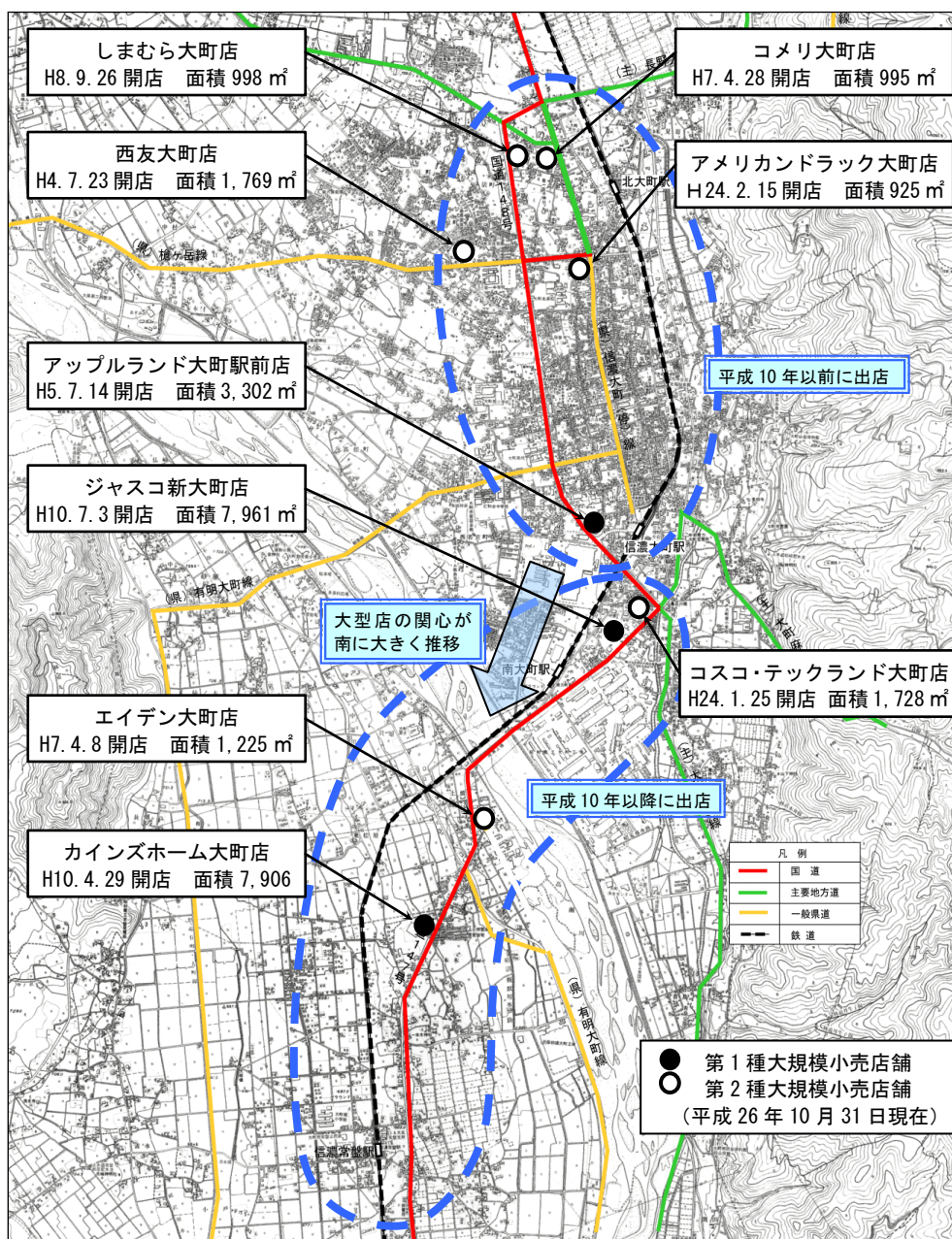
(資料：商業統計調査 大規模小売店含)

※直近調査は、平成26年7月1日を基準日とし、現在集計中。



### ⑤大規模店舗の立地状況

- 当市では、店舗面積が3,000㎡を超える第1種大規模小売店舗が3店舗、店舗面積が500㎡を超える第2種大規模小売店舗が6店舗あります。その位置としては、国道147号、148号沿線に多く分布しています。
- 出店時期をみると平成10年以前は中心市街地へ出店していましたが、それ以降は常盤地区への出店が続いており、大型店の関心が南に推移しています。
- 集客力の高い大型店の立地が、中心市街地から南に移動したことが、中心市街地の商業機能の衰退の大きな原因と考えられます。

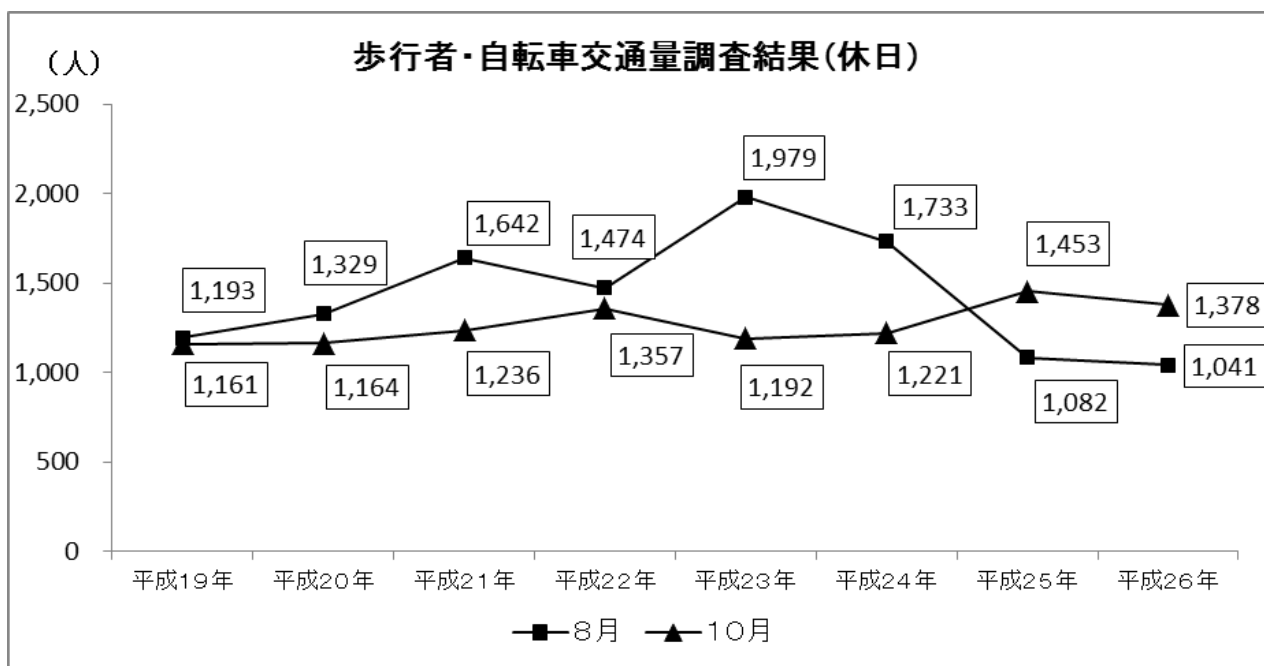
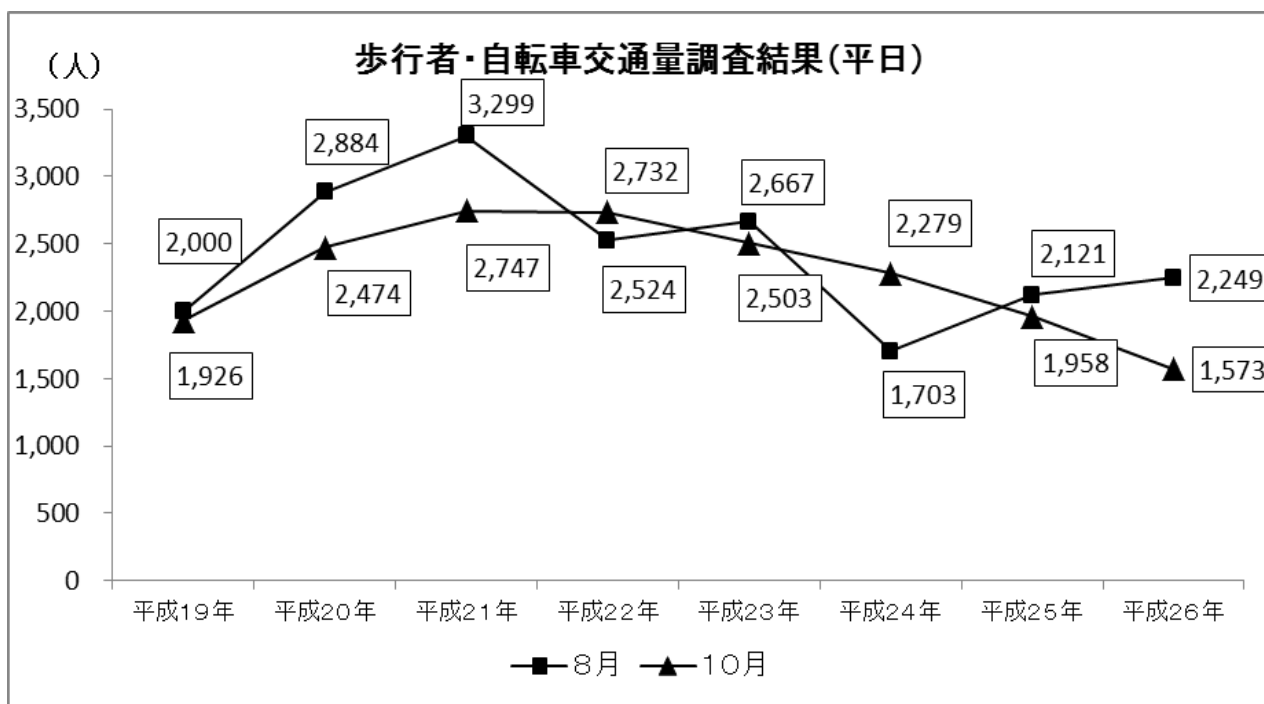


#### 4) 商店街としての魅力の低下による来街者の減少

##### ① 中心市街地の歩行者・自転車通行量

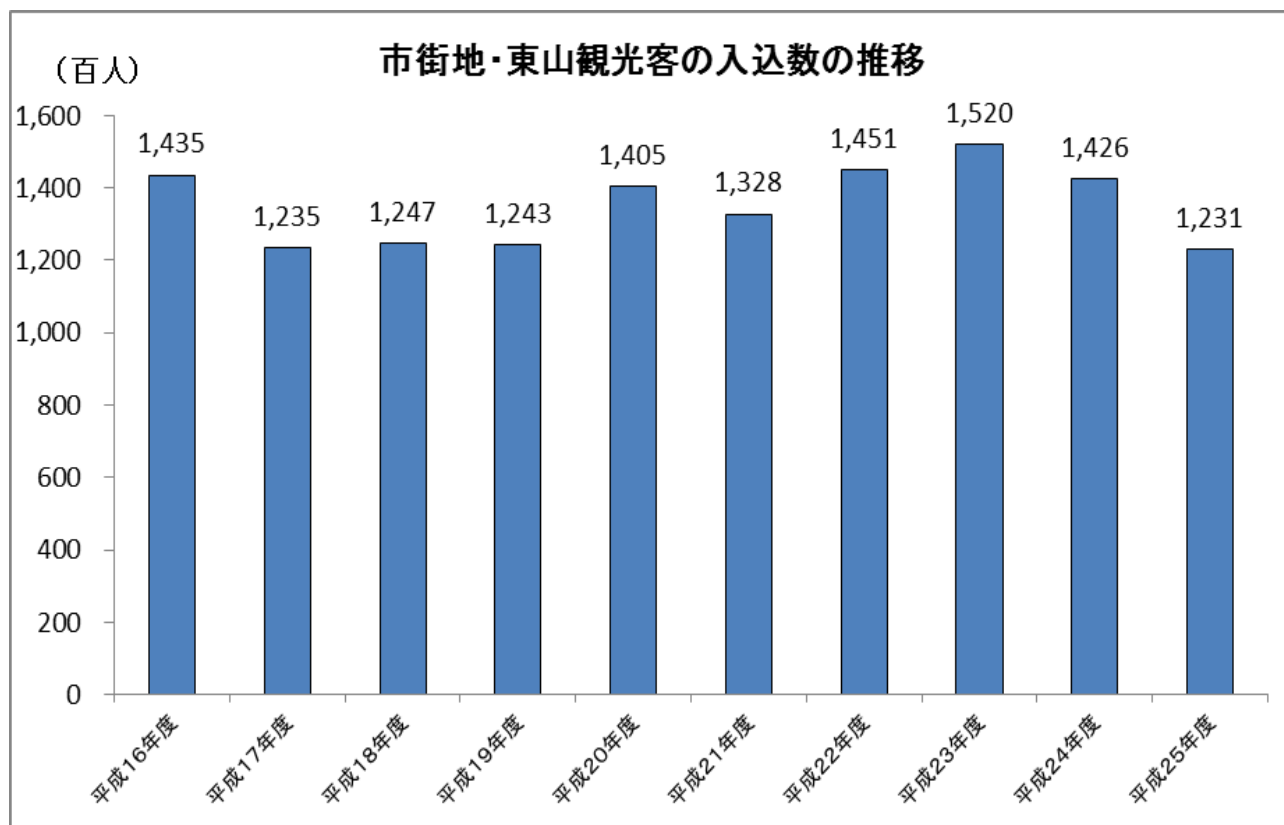
- 平成26年の平日の歩行者・自転車通行量の平均は1,911人、休日の歩行者・自転車通行量の平均は1,209.5人であり、休日の歩行者・自転車通行量は、平日の63.3%です。
- 平成19年と平成26年の平均を比較した場合、平日は2.6%の減、休日は2.8%の増であり、休日の方が増加しています。

※中心市街地の歩行者・自転車通行量＝中心市街地3地点（大町郵便局前、大町商工会館前、大黒町ポケットパーク前）の午前9時から午後7時までの10時間の歩行者・自転車通行量の合計



## ②観光入り込み客数

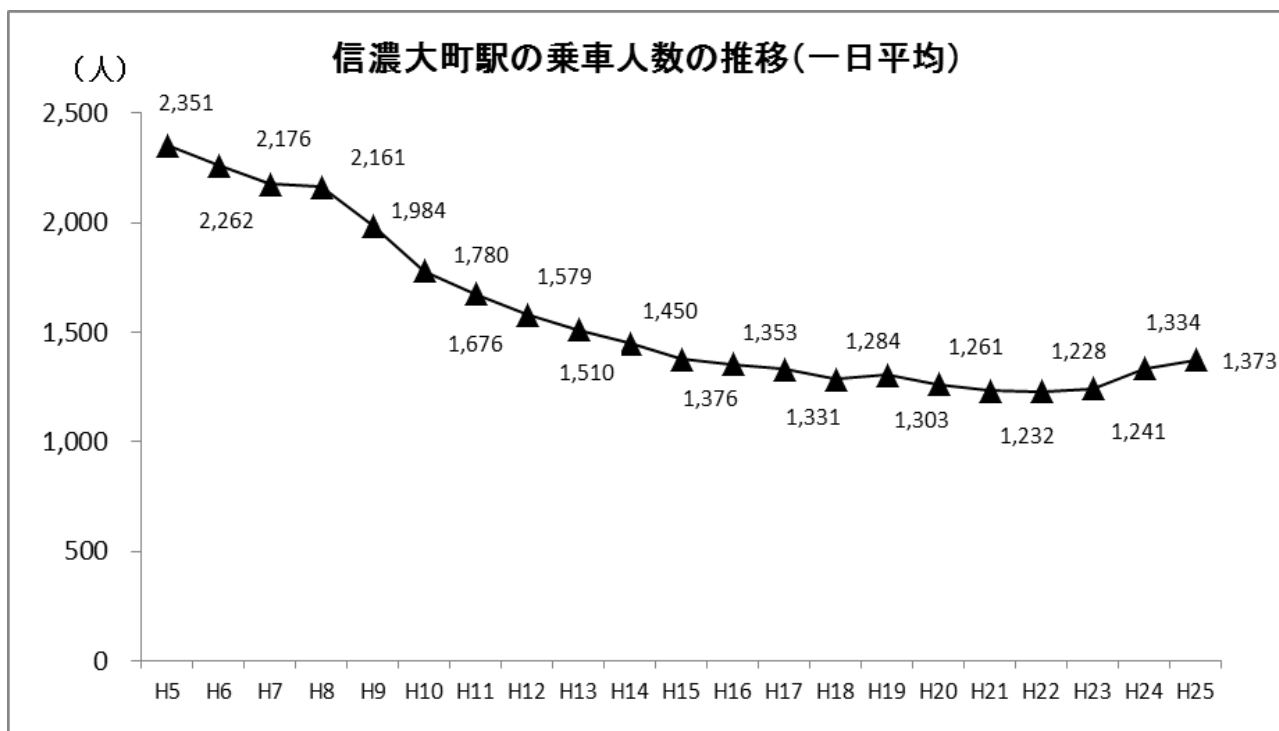
- 平成25年度の市街地・東山観光客の入り込み客数は、12万3,100人です。
- 平成16年度と平成25年度の9年間の市街地・東山観光客の入り込み客数の推移をみると、平成16年度と比較した場合、平成25年度は14.2%減少しています。



(資料：市観光課)

### ③ JR信濃大町駅の乗車人数の推移

- 平成25年のJR信濃大町駅の乗車人数（一日平均）は1,373人です。
- 平成16年から平成25年までの21年間のJR信濃大町駅の乗車人数（一日平均）の推移をみると、平成25年は1.5%増加しています。



出典：JR東日本長野支店